福島税務署長賞

「税金の使い道に関心を」

福島大学附属中学校
一年 鈴木千陽子

「中学生になったから、医療費がかかるようになっちゃったんだよねぇ。」

先日、病院に行ったときのことです。母がボソッとつぶやきました。病院の治療費がどうなっているかなど考えたこともなかった私は、福島市が小学六年生までの医療費を助成していることをそのとき初めて知りました。本来の保険診療で自己負担する部分を、市が代わって支払ってくれていたのです。

母の話では、助成制度は自治体によって違うといいます。インターネットで調べてみると、都道府県が負担する部分と市町村が負担する部分の二段階になっていることが分かりました。福島県の場合、就学前の子どもの医療費を県が助成し、小学校入学以降の医療費を市町村が助成しています。自治体によって助成の制限年齢はまちまちで、中学卒業まで受けられるところと、小学三年生までしか受けられないところもあります。数年前の資料でしたが、さらに県によっては二歳までしか助成を受けられないところもあるそうです。住んでいるところによって行政サービスに差が生じるなんて不公平だと思いました。

「中学生にも医療費を助成してくれる市に引っ越せばいいんだ。」

冗談めかして言う私に母はまじめに答えました。

「医療費だけ比較したらそうかもしれないけど、市町村がお世話をしてくれるのはそれだけじゃないの。医療費はただだけど、水道料金が福島の二倍だったらどうする?」

市町村が予算をどう使うかは市町村がある程度自由に決められます。それぞれの自治体の予算規模や住民の生活の実情に合わせて、議会が決定するのです。子どもの医療費を助成する町もあれば、お年寄りの医療費に力を入れる村もあります。均等にではなく所得の低い人に補助するという方法もあります。病気にならないように健康診断に力を入れたり、健康増進のためにスポーツ施設を充実させるところもあるそうです。

よく、「税金を取られた」と言う人がいます。「なんで税金を払わなくちゃいけないんだ」と言う人もいます。そういう人たちは自分の意に沿わない使い道だけをとらえています。まるでそれがすべてであるかのように、生活のために使われる税金のすべてを否定しているように思えます。確かに、税金が正しく、より良く使われているか関心を持つことは必要です。でも、還元されないからと否定して納めないでいることは間違いです。

中学生の私が納めている税金は、お小遣いで買い物をしたときの消費税ぐらいでしょう。でも、周りの大人の人たちが納めた税金の恩恵をたくさん受けています。自分が大人になったときには税金をしっかり納めて、使い道にも関心を持ち、いずれはすばらしい使い道を提案できるようになりたいです。